

# 就職活動体験記

政岡 和佳（文学部文学科日本文学専修）

## はじめに

私は市区町村立図書館での採用を目指し就職活動を行い、合計七つの自治体にて一般事務職、司書職を受験しました。結果、計4自治体、二つの市役所、そして二つの市立図書館から最終合格をいただきました。今回特に司書職採用試験をもとに自身の経験を記します。

## 1 司書をめざしたきっかけ

私は市町村立図書館での採用を目指し公務員試験1本での就職活動を行いました。きっかけは幼少期に毎週図書館に連れて行ってもらっていたことです。私は本を読むことが好きだった、というよりも図書館の空間そのものが好きでした。自分の好きな図書館という「場」を作り上げる司書の方々への憧れがつのり漠然と将来は図書館司書になりたいと思うようになりました。大学入学後、司書課程のほか大学1年次より中村百合子先生にご紹介いただいた公立図書館にてアルバイトとして勤務させていただきました。その経験から、図書館員として資料媒体を通じ利用者の機会の提供に携わりたいとさらに思いを強くしました。民間企業への就職活動も検討しましたが、司書職への憧れが強かったこと、公務員試験と民間企業両方の対策ができるほど自分は器用ではないことを考え断念しました。

## 2 公務員試験対策の経過

私は専門科目を勉強せず週1、2回の学内対策講座を中心に教養科目の対策を重点的に行っていました。とは言ったものの、3年次には所属している吹奏楽団の活動が忙しかったことを言い訳に教養試験の対策をおろそかにしており、数的処理のみ時間があるときに解きなおすことにとどまっていました。結果3年生の春休みから本格的に勉強を開始しました。受験のはじまりは4年の6月中旬からでした。筆記試験は土日が多いため気分転換も兼ねて春学期は週2日ほど講義を受けつつ一次試験を受験しておりました。

## 3 使用した教材

私は、なるべく試験対策にお金をかけないように以下の資料を中心に学内、公立図書館での貸出で資料を集め勉強を進めました。特に参考にした資料を掲載します。

- 教養試験：3年3月から4年9月
  - ①雑誌『受験ジャーナル』（実務教育出版）
  - ②公務員講座の過去問題集
  - ③高等学校の教科書
  
- 司書の専門試験：4年の夏季休暇期間
  - ④『図書館職員採用試験 対策問題集 司書もん』シリーズ3巻  
（後藤敏行著，図書館情報メディア研究会，2014-2015年）
  - ⑤『図書館ハンドブック』第6版補訂2版（日本図書館協会，2016年）

上記に取り組んだ期間を記入しましたが、おすすめしません。私を反面教師にしてなるべく早めから取り組む方がより確実に、落ち着いて励むことができると思います。

②の問題集に関しては公務員対策講座で配布される資料を使用していました。①③については立教大学図書館および二号館での閲覧にて各科目の理解を深めました。

司書の専門試験に関しては、集中的に教科書とハンドブックを中心に司書課程で学習した内容を復習し新しい知識は随時メモをとり口頭で説明ができるようにまとめていました。恥ずかしながら、休暇前は一般事務の筆記試験、面接試験に追われ対策を行う時間をとることができませんでした。自治体によっては過去の問題をウェブサイトに掲載しているところもあります。それらや年鑑を通じて「今どのようなことが図書館で関心事であるか」を確認しておくことが重要でした。『司書もん』掲載の問いにきわめて類似した問題の出題もみられました。

個人的には試験を「点数を取る」という目的よりも「その受験先へ向けた努力量」の大きさと捉えなおして試験へのモチベーションを維持しました。

#### 4 就職活動の対策に使用した施設

- 履歴書の添削  
4年4月 立教大学キャリアセンター（池袋）
- 面接/グループワーク  
4年4月 立教大学キャリアセンター（池袋）
- プレゼンテーション（司書職2次試験）  
4年6月 東京新卒応援ハローワーク（新宿）

#### 5 面接対策

地方自治体試験では筆記試験に集中してしまいましたが、履歴書や面接への対策は要でした。そこで①面接前の対策②面接時大切にしたことの2点を以下に記します。

##### ①面接前の対策

基礎自治体では、筆記試験前に記入した履歴書、エントリーシートを中心に質問がされました。言い換えれば筆記試験以前に自治体に関して理解しておく必要がありました。私は自身が居住している地区を受験しませんでした。理解を深めるために自治体へ直接訪問することを重要視しました。特に市町村立図書館ではレファレンスで地方自治体に関する資料を紹介していただくことができます。先方の業務に支障がでないよう心掛けながら職員の方のお仕事のやり方をこっそりのぞかせていただいたりレフェラルサービスとして施設を紹介していただいたりしていました。

##### ②面接時大切にしたこと

受験を進めていくなかで私は受験している自治体の数が少なく、場慣れすることが難しいと感じました。そこで大学のキャリアセンターにて対策教室に通い、面接中のマナー、面接の空気感に慣れる経験を積みました。実際の面接の内容に関しては、各自治体でももちろん異なりますが、「ストレス耐性はあるか、およびその解消方法」「他人からどのような人だといわれるか」のように他者との関わり方を探る質問が多いように感じました。

面接対策のために書店や図書館を見回すと面接官のための書籍も出版されており、お互いに模索しながら面接は行われていることを再認識しました。採用者も面接官も人間ですから、あくまで「試験」ではなく「会話」だと思い自身の気持ちを伝えようとする姿勢を心掛けました。

## 6 進路の最終決定

私は4自治体で採用をいただくことができましたが、最終進路選択に悩みました。11月末に司書職ではじめて最終合格をいただき、その自治体Aでの採用で決定しておりました。しかし、1月中旬に補欠合格の繰り上げを受け、自治体Bでも司書職での採用の声をかけていただきました。長い就職活動期間のなかで双方に思い入れがあり決めかねていました。

そこで、中村先生にご相談させていただき、自治体Aにて司書職として勤務されている立教大学の先輩にお時間をいただきお話しを伺うことができました。加えて直接自治体A、Bを訪問し、双方のサービス方針を見直しました。

結果として先に最終内定をいただいた自治体Aを選択することに決定しました。正直に申し上げると、どちらの図書館も魅力があふれており最後の最後まで決めかねておりました。そのときアルバイト先の司書の方からかけていただいた「きっとどちらを選んでもいい意味で後悔が生まれるよ」という言葉に励まされました。就職後にいずれにしても悩みをもつのであれば、先に内定をいただいた自治体Aを信じてみよう、という結論に至りました。

## 7 これから就職活動を迎える方へ

おそらくほとんどの方にとって就職活動ははじめての経験であり不安をつのらせる日もあるかと思います。だからこそ「自分のあるがまま」を大切にするとよいのかな、と思います。無理に勉強スケジュールを組んだり試験で気負いすぎたりせず落ち着いて挑めば本番で実力はついてきます。面接試験もあくまで自分の考えを伝える場ですから自分の意見を率直に述べていくと面接官の方に思いが届くような気がしました。

同時に私は「あるがまま」を保つために友人たち、アルバイトの職場の方々との時間を大切にしていました。他者と話すなかで自身の気持ちを再開示して見つめなおすこともできるでしょう。周囲の方も応援してくれていると思います。

そして、これまで私の経験をお伝えしてきましたが、自分自身模索しながら就職活動を行いました。そのためひとつの例だと捉えていただければ幸いです。手のひら返しのように恐縮ですが、自分で考えるなかで自身にあうやり方がきっと見つかります。

就職活動中はどうしてもそれだけに重点を置いてしまいがちになりますが、それは他の方々も同じです。だからこそ「あるがまま」を保ちながら困難を乗り越えることができれば視野が広がり自身にとって大きなアドバンテージになると思います。就職活動を迎える方々が自身の満足する指針へ歩むことができるよう心からお祈りしております。

### おわりに

改めて、私のこの文章をお読みいただきありがとうございます。

私は司書での採用を目指し就職活動を行いました。果たして司書が自身にとって適性があったか、それはまだわかりません。また、大学生のときには見えなかった課題も複数あるのではないかと推測しています。それも踏まえて、自身が挑戦できる資格を得たと思い引き続き精進したいと考えております。

最後になりましたが、中村先生、ハモンド先生をはじめ司書課程で教授してくださった先生方、アルバイトを経験させていただいた公立図書館の皆様、友人たち、私を励まし応援してくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

お読みの方へ自身の体験が少しでもお役に立てるのであれば嬉しい限りです。